



# リボン付き麦わら帽子 SUN-4-22SS 4-1

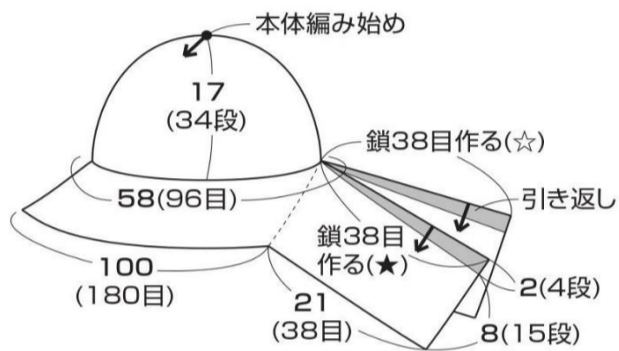
- ☆でき上がり寸法 頭まわり約58cm、深さ約17cm
- ☆使用糸 エコアンダリヤ (40g玉巻)
- ☆副資材 テクノロート (形状保持材) ( W3000 ) …148cm  
熱収縮チューブ( TW3000 ) …2.5cm×2本  
かぎ針5/0号

使用色	使用量
ベージュ(23)	4玉

寸法表記について  
(例) 45(100目) = 45cm(100目)  
38(60段) = 38cm(60段)

## 1 本体を編みます

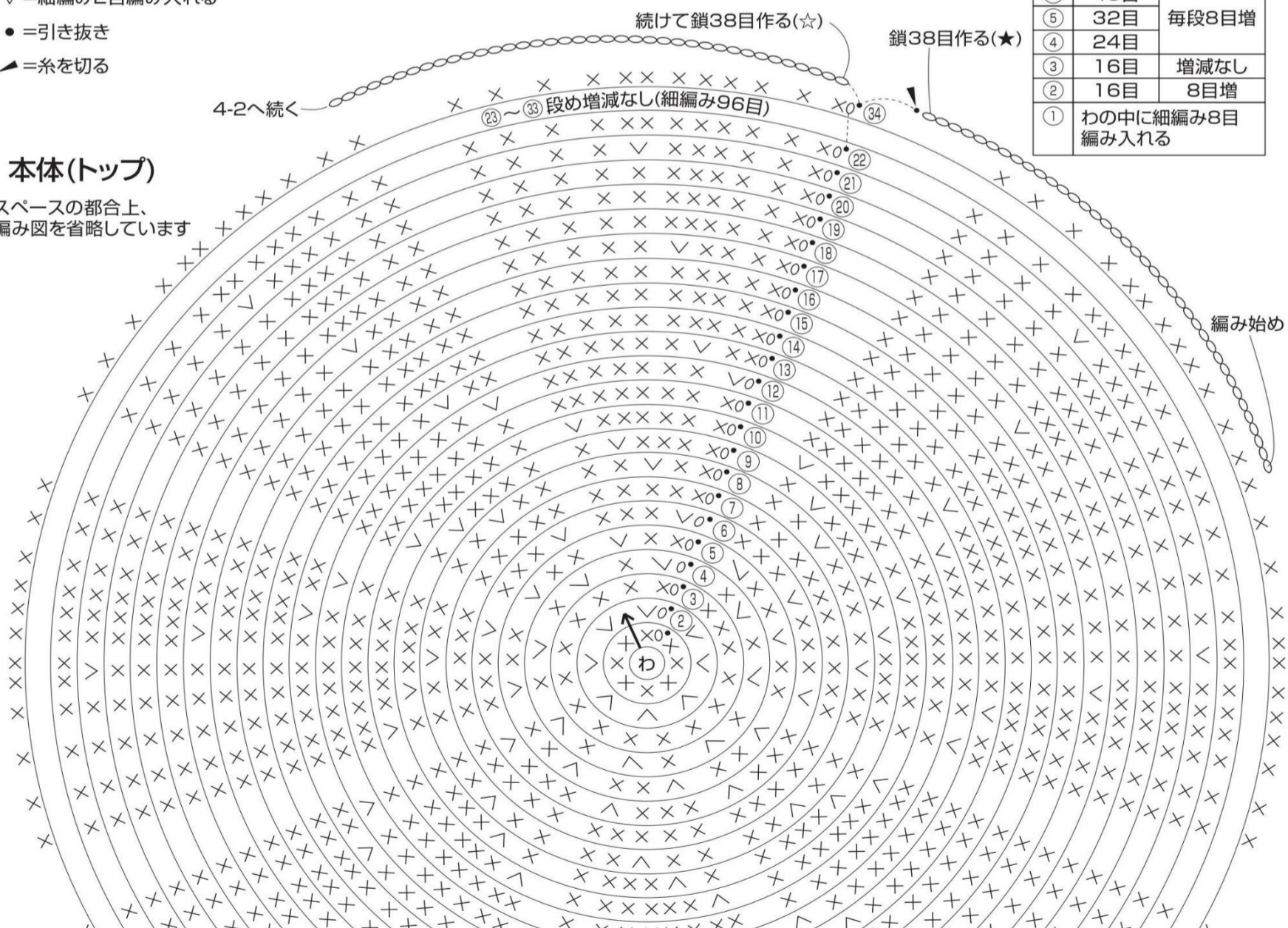
糸は1本どりで編みます。  
わの作り目で編み始め、図のようにトップを編みます。  
ブリム・リボンは図のように続けて編みます。  
最終段にはテクノロートを編みくむみます。



- × = 細編み
- ∨ = 細編み2目編み入れる
- = 引き抜き
- ▲ = 糸を切る

### 本体(トップ)

※スペースの都合上、  
編み図を省略しています



### 〈トップの増し方〉

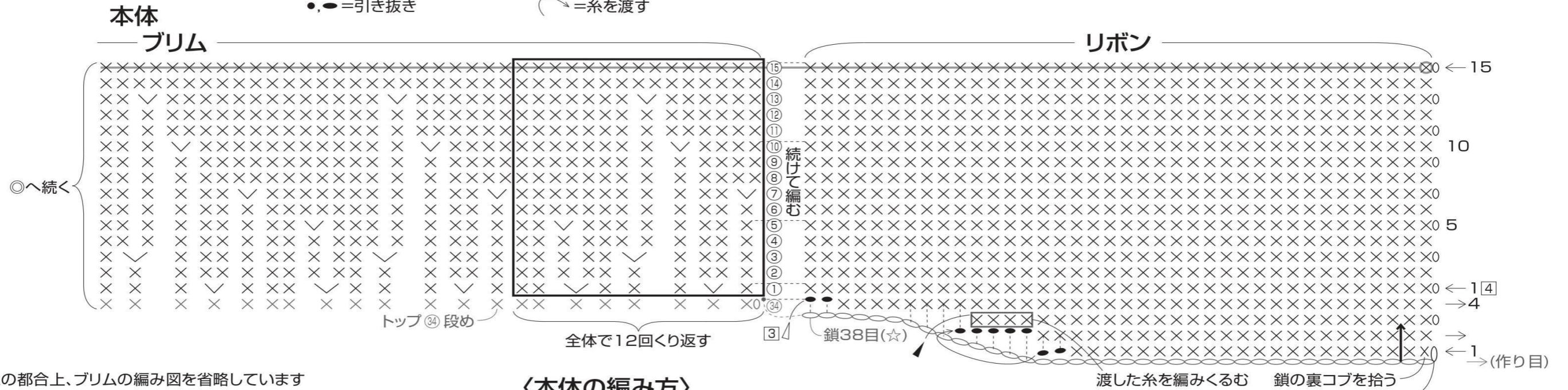
段	目数	増減
34	96目	増減なし
22		
21	96目	8目増
20	88目	増減なし
18		
17	88目	8目増
16	80目	増減なし
14		
13	80目	毎段8目増
12	72目	増減なし
11	64目	増減なし
10	64目	毎段8目増
9	56目	
8	48目	増減なし
7	40目	
6	40目	毎段8目増
5	32目	
4	24目	増減なし
3	16目	
2	16目	8目増
1	わの中に細編み8目編み入れる	





- × = 細編み
- ▽ = 細編み2目編み入れる
- , ○ = 引き抜き
- △ = 糸をつける
- ▲ = 糸を切る
- ↷ = 糸を渡す
- = テクノロート

※熱収縮チューブを使用した場合の  
テクノロートの編み始め(—○)と  
編み終わり(○—)(4-4参照)



※スペースの都合上、ブリムの編み図を省略しています

〈本体の編み方〉

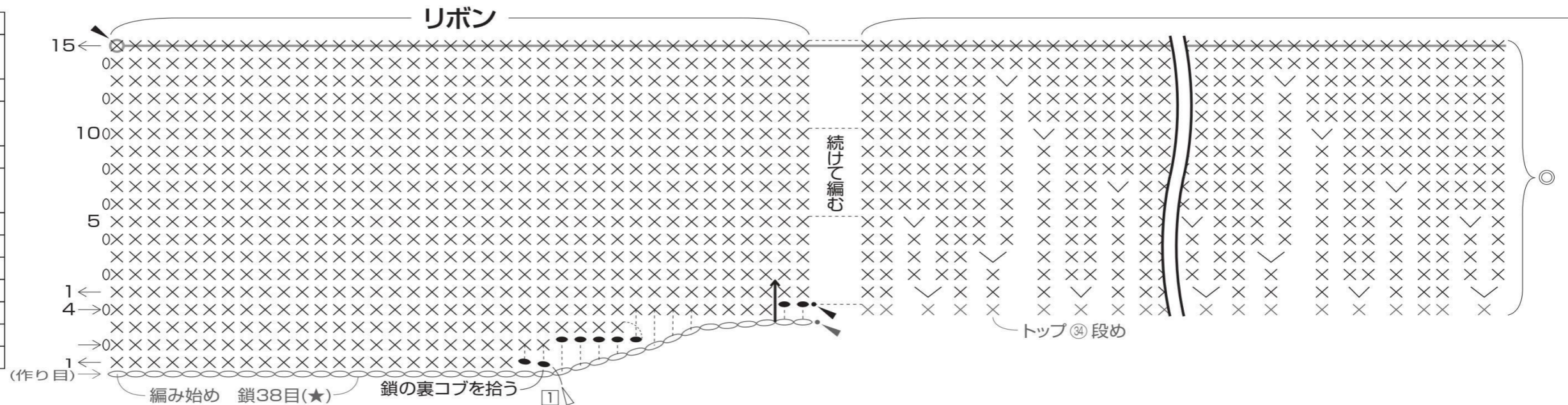
- ① 鎖38目(★)に糸をつけて往復で4段図のように編み、糸を切る。
- ② 鎖38目(★)から続けて往復で3段図のように編み、糸を切る。
- ③ 図の位置に糸をつけて4段めを編む。
- ④ 続けてリボンの38目・ブリムの120目・リボンの38目(計196目)を拾う。

〈ブリムの増し方〉

※リボン部分は含まない

段	目数	増減
⑮	180目	増減なし
⑭	180目	増減なし
⑬	180目	12目増
⑫	168目	増減なし
⑩	168目	12目増
⑨	156目	増減なし
⑦	156目	12目増
⑥	144目	増減なし
⑤	144目	12目増
④	132目	増減なし
③	132目	12目増
②	120目	増減なし
①	120目	24目増

リボンから続けてテクノロートを編みくるむ



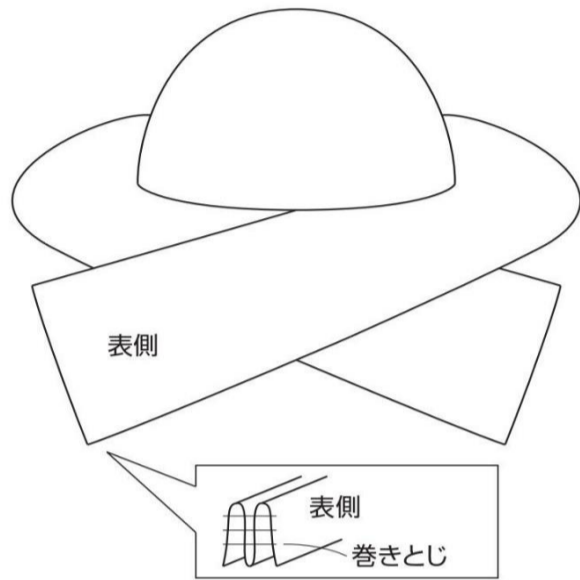




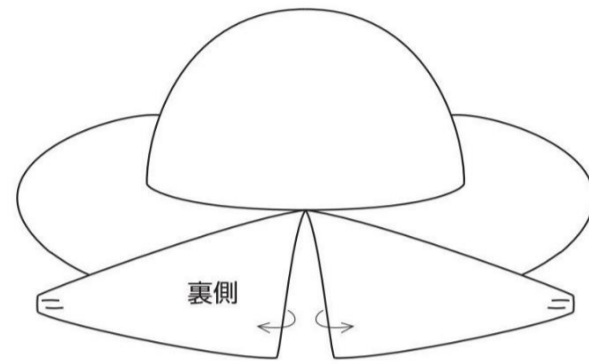
## 2 仕上げます

共糸鎖の作り目で編み始め、リボン中央を編みます。  
本体を図のように仕上げ、リボン中央をとじつけます。

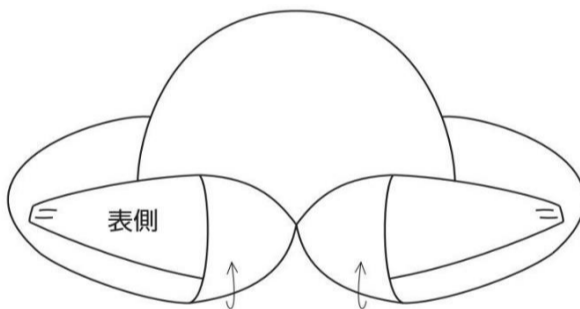
### 〈本体の仕上げ方〉



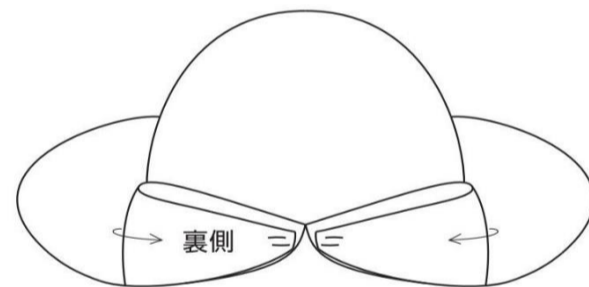
① リボンの先にタックを作り、  
端を巻きとじにする。



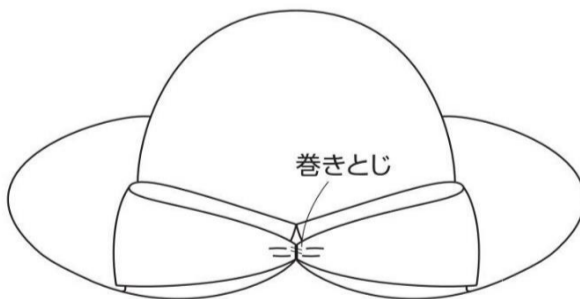
② リボンを矢印のように折り返す。



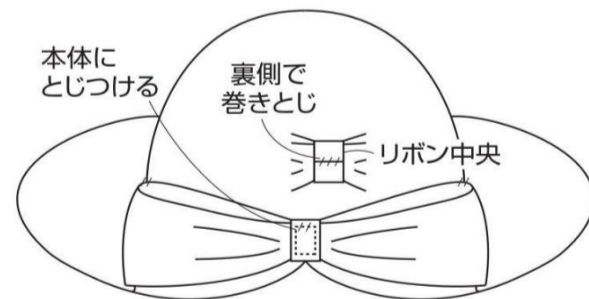
③ ②で折った部分をトップ側に折る。



④ リボンを矢印のように折り返す。



⑤ リボンの端同士を巻きとじにする。

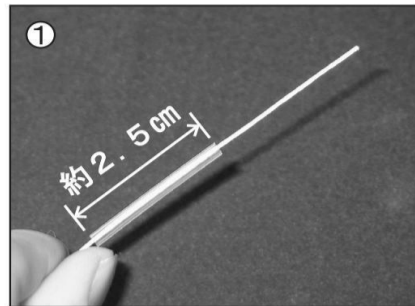


⑥ リボン中央を巻いて裏側でとじ合わせ、  
裏側を本体にとじつける。  
リボン両端を表にひびかないようにとじつける。

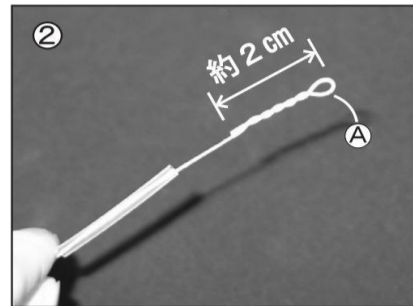




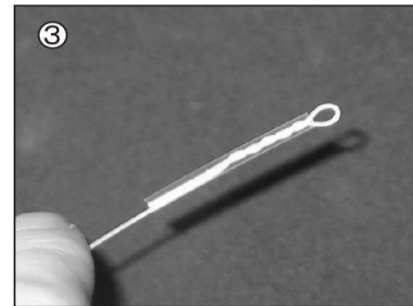
**テクノロートの編みくるみ始めと終わりの始末**



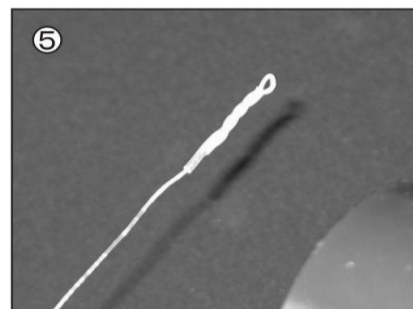
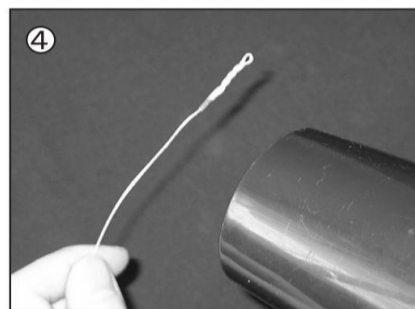
① あらかじめテクノロートにチューブを通しておきます。  
※チューブは約2.5cmにカットします。



② テクノロートの端から2cm前後の所で折り曲げ、数回ねじります。この時ねじって作った輪(A)は、かぎ針の頭が入る程度の大きさにしておきます。



③ テクノロートをねじって作った輪の手前まで、チューブをずらしします。



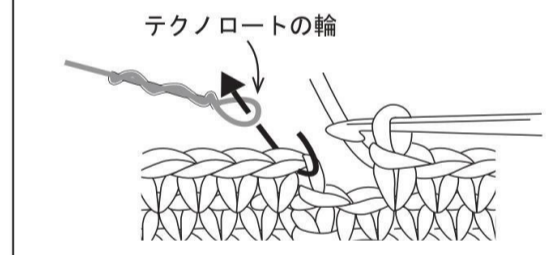
④～⑤ ドライヤーでチューブ全体を加熱し、収縮させます。  
※チューブが収縮しない場合は、さらにドライヤーを近づけて下さい。

[ドライヤーをあてる時の注意]

- (1) 加熱時間は1分程度が目安ですがドライヤーの温度により、多少異なります。
- (2) チューブが収縮しない場合は、ドライヤーを近づけて下さい。(近づけすぎにご注意下さい)
- (3) ドライヤーを長時間あてたり、近づけすぎると、チューブだけでなくテクノロートも溶けてしまう可能性がありますので、様子を見ながらあてるようにして下さい。

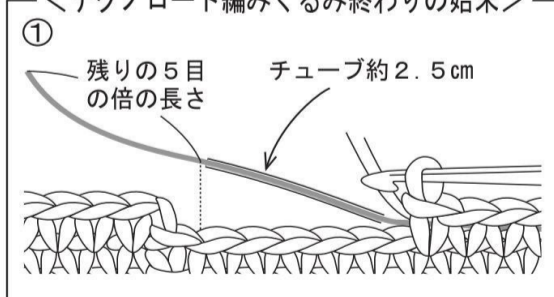
**※熱収縮チューブが折れても、品質上問題はありません。**

＜テクノロート編みくるみ始め＞

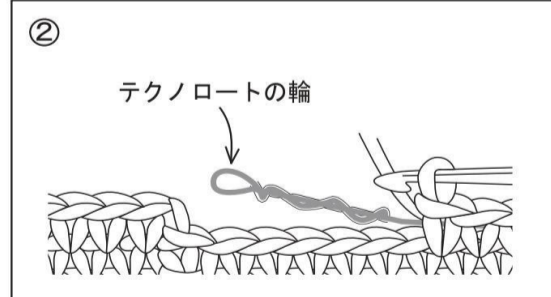


テクノロートを編みくるみ始める段は、段の編み始めの目とテクノロートの輪に針を入れて、編み始めます。

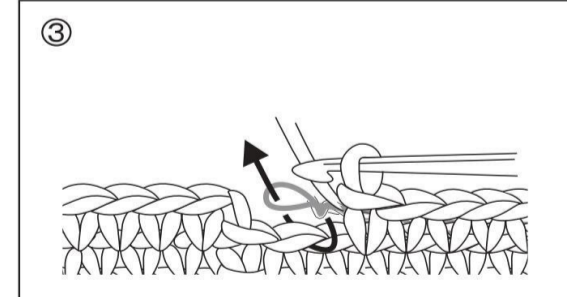
＜テクノロート編みくるみ終わりの始末＞



編み終わりの5目ほど手前まで編んだら、帽子の形をざっと整えて、テクノロートのカットする長さを測り、カットします。(※残りの5目の倍の長さ)  
この時点でチューブ約2.5cmを通します。



上記の②～⑤を参照し、チューブを収縮させて、テクノロートの輪を作ります。



前段の最終目とテクノロートの輪に針を入れて段の最後の細編みを編みます。編み始めの目に引き抜き(又はチェーンつなぎ)をして、糸端の始末をします。